



明日へ

学校教育目標

自律：自ら考え、判断し、行動する生徒
尊重：自他を理解し、協働する生徒
創造：健全な心身と豊かな発想で、創意工夫する生徒

学校テーマ ～みんなで創る！夢・実現する学校～

平和教育講演会「男子学徒と沖縄戦」

6月10日(水)、一般社団法人「一中学徒隊資料展示室」解説員の大田光氏を講師に、全学年へ向けての平和教育講演会を実施しました。

沖縄戦では第一中学校(当時は男子校で現在の首里高校)の男子生徒(14歳から19歳)約2,000人が「鉄血勤皇隊」や「通信隊」として動員されていました。

戦況の悪化とともに多くの学徒兵が命を落としていくという悲劇的な歴史を学び、二度とこのような悲劇を繰り返すことなく、平和への意識を高めることをこの講演会のねらいとしています。図書室から各クラスへのリモート配信での講演会でしたが、どの生徒も真剣な態度で、講師の話に耳を傾けて聴く姿が見られました。



講話は図書室からのリモート配信



各クラスで講話を傾聴



講師：大田光氏

〈お礼の言葉〉3年生 松川侑愛さん

本日、私達のために、貴重なお話を下さった大田光さん。本当にありがとうございました。また、このような学びの機会を準備して下さいました先生方に生徒一同、心から感謝します。



私達は去年の2学年の平和学習で「ひめゆり学徒隊」の女子生徒たちの悲劇について学びました。そして今日の大田さんのお話から、わずか14歳から18歳という、今の私達と変わらない

い少年たちが、「鉄血勤皇隊」として過酷な戦場へ駆り出されたことを知りました。沖縄戦では、男子も女子も私達と同じくらいの年齢の先輩たちが、学校で勉強をすることも、将来の夢を叶えることも許されず命を奪われてしまったのだと知り、改めて恐ろしさを感じています。

今の私達は、毎日学校に通い、友達と笑い合っている。自分の将来について自由に夢を見ることができます。しかし、当時の少年たちは、その当たり前前の日常や、たくさんの可能性をすべて奪われてしまいました。

大田さんがおっしゃった「体験者からの証言は残っていて当たり前ではない」という言葉を聞いて、すごく考えさせられました。

私達はこれまで、戦争を「教科書の中の遠い出来事」のように感じてしまうことがありました。しかし、去年の学びと、今日のお話を自分の中でつなぎ合わせた時、今ある平和がいかにありがたいものであるかを、自分たちの問題として深く実感することができました。

鉄血勤皇隊やひめゆり学徒隊の人たちが、生きたくても生きられなかった「未来」を、今私達は生きています。今日学んだことを決して忘れず命を大切に、周りの人を大切に、平和な世界をつくっていくために、自分たちにできることを一つずつ考えて行動していきたいと思っています。

改めて、本日は、私達の心に響く素晴らしいお話を、本当にありがとうございました。

沖縄「平和の礎」 名前を読み上げる集い2026

6月10日(水)、沖縄県の取組の一環として、3年生が『「平和の礎」名前読み上げる集い』に参加しました。

これは「平和の礎」に刻まれた戦没者の氏名を生徒が一人ずつ読み上げ、戦没者への追悼の意を捧げ、命の大切さや平和について学ぶことをねらいとしています。

